

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 0372600288 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人稲泉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム けーせん | | |
| 所在地 | 岩手県西磐井郡平泉町平泉字片岡72番地3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年8月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成21年11月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372600288&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | (財) 岩手県長寿社会振興財団 |
| 所在地 | 岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号 |
| 訪問調査日 | 平成21年9月29日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成17年3月開所4年目となり地域交流を大切に進めて来ました。今では草刈り奉仕をいただいたり、地域活動(70歳以上対象月1回サロンの会)一員となり地域のみなさんと馴染み交流が取れている。町役場にも、平成19年から七夕飾り(吹き流し)7月中旬から8月上旬玄関に飾ってもらっている。七夕作りと役場へ行く事が楽しみの行事になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員で作成した地域密着を謳った理念を掲げ、利用者と地域の関係を大切に日々取り組みをしている。少しずつ介護度は高くなってきているが、職員、家族、地域の方々の協力で穏やかな生活の様子が見てとれた。自然に寄り添い、穏やかに声を掛けてさりげなく接する様子は、家族のそれとよく似ている。週1日、法人の看護師が来所して医療面のサポートが出来るようになって、安心感が増した。現在特養の増床、デイサービスの改築と工事が入り今後は楽しみである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域との関係の継続かつ支え合う暮らしを目指した理念に基づき年間行事に地域交流の行事を取り入れ交流の場所を提供し地域の方々との行事が定着してきている。 | 地域密着型になり、職員全員で理念を作り変えた。ホールとトイレに貼り出し、目に付きやすい方法をとっている。地域に出かけたり、ホームを提供したりと、交流をしながら関係作りをしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の方の来荘、野菜、花、果物を頂いたり日常的な交流がある。また年間予定で5月・8月草刈り奉仕、とび入りの草刈り奉仕を頂いたりしている。 | 自治会には加入していないが、地元青年会が法人内の草刈をしてくれたり、民生委員さんが草取りを申し出てくれたりと、地域の方々が暖かく支援をしている様子が見取れた。訪問時も職員に欠員が出た為近所の方2名が炊事手伝いに来ていた。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方々との交流が保たれているので利用者への理解、協力支援を頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームの活動、運営状況の報告を行い理解して頂きながら参加者からの意見、また情報提供してもらいホームでの取り組みに活かしている。 | 回を重ねることで、ホームへの理解が深まった。地域を取り込んでの防災訓練も可能になった。町の方針で包括支援センターから保健センターの職員が指名されて推進会議に参加をしている。次回は、新型インフルエンザについて指導を受ける予定。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 担当職員との報告、相談、情報提供頂きながら進められている。町役場では利用者さん作成七夕飾り吹き流しを飾ってもらっている。(今年で3回目7月中旬から8月上旬まで) | 七夕祭りをホームで楽しんだ後、役場に飾りを寄贈して喜ばれている。町の広報に写真が載ったり、来年も期待されたりと協力体制が強くなっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 勉強会等行い職員間意識付けている。やむを得ない場合は家族への報告、了解、承諾書を頂き経過報告廃止への取り組みをしている。玄関施錠については使用していない。 | H20年4月～1年間、職員で検討を重ね家族の了解をとって、安全を優先に考えてペット柵を取り付けた。外出行動が激しい時は、玄関にセンサーを取り付けた時期もあったが、夜間防犯を除いて施錠はしていない。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会を通し職員間で意識付けをしている。 | | |

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「けーせん」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 対象者はいないが制度について勉強会を開き知識を得る様に取り組んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時説明し家族の質問、話し等を聞き対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時には必ず状況報告し、また家族からの意見要望が無いか家族の話し場を作る様になっている。家族の意見等についてはミーティング、会議等で話し合い反映させている。 | 利用料、小遣いの報告は月1回。ホーム便り2ヶ月に1回郵送している。多い家族は週1回来所、遠い家族でも年数回訪問している。お金を使う時は事前に家族の了解をもらっている。運営に関して家族からの要望は無い。 | 家族会がなく、家族同士が交流する機会は少ないので、行事の案内に家族交流会もする旨を書き加えるなど、検討を重ねて交流の機会を設けることを期待する。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日のミーティングの時間と月に開催されるチームケア会議等で意見交換している。 | 毎日申し送り時ミーティングをする。月1回チームケア会議(朝9:30~10:30)を全員参加で意見交換をしている。看護師派遣を受けたことも成果である。年2回施設長と職員が1:1で、意見を聞く機会が設けられている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎年少しでも職員への処遇改善出来る様に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | それぞれ研修会に参加し知識を身に付ける様、またそれが職員の質の向上へと繋がる様に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム定例会等に参加し勉強会、情報交換したり、交流を持ち、またその会での情報、勉強した内容についてホーム内で報告勉強会を開催したりしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用申し込み、調査時面談で生活状況を把握する様努めている。本人に会って心身の状態や思いを聞き受け止める努力をしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族が気にせずゆっくり話し合いができる時間を取り対応している。入所申し込み調査時、また契約時等に家族の話を聞き入れる様にしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時は状況等を確認し早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他事業所のサービスに繋げる等の対応をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 外出、散歩、買い物の機会を設け対話をしたり、料理、畑仕事等の活動と一緒にしながら利用者の方々と共に過ごし、本人から学ぶ場面を作る工夫をして取り組んでいる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の思いに寄り添いながら生活上気付いた事や出来事の情報を共有し、家族と共に本人を支える様に支援している事を伝えている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 以前より利用している美容室を引き続き利用したり知人、友人に訪問して頂いたり、電話で話したり継続的な交流が出来る様働きかけている | 6人(女性)は、利用前からの美容院を利用している。1人の方は帰宅して家族と利用している。近所だった方が遊びに見えたり、平泉中学校吹奏楽発表の招待を受けたり、町の文化祭に作品(紙のれん、ちぎり絵)を出展している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者心身の状態や気分で感情変化する事もあるので見守りながら毎日のお茶、食事提供時間、活動等を通して職員も一緒に楽しく過ごせる時間の場面作りをし、利用者同士の関係が円滑に過ごせる様働きかけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他事業所へ移られた方にも面会に行ったり、分らない事について情報提供しながら交流を持っている。家族にも気軽に立ち寄ってもらいお茶を飲みながら話を聞いたり、また相談がある時は相談を受けたりしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常の関りの中で表情や会話から思いを聞き取る様努めている。自分の思いを表す事が難しい方の場合は家族、ケアマネージャーから生活状況を聞き把握に努める。 | ほとんどの方が思っていることを話すことが出来る。職員も態度や様子で利用者の気持ちを推察できるようになってきている。本人の気持ちを第一に考えてケアをしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 調査時、契約時に本人、家族の思いを聞き取る様努めている。自分の思いを表す事が難しい方の場合は家族、ケアマネージャーから聞き取り生活状況の把握に努める。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活リズムを把握し本人の出来る能力を発見しその人の全体像を把握する様に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族に暮らしに対する要望を聞き反映させる様にしている。また職員全員で意見交換、カンファレンスを行っている。 | 月1回のチームケア会議では、勉強会も合わせて行いケアプランに反映させている。ケアプランの見直しがあった時は電話で家族に報告している。担当が付いているが、報告に関しては、管理者が行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別にファイルを用意し身体状況、生活状況及び日誌、ケースにて日々の暮らしが分る様記録している。個別記録を元に介護計画に活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族の状況に応じて通院、送迎、買い物等必要な支援を柔軟に応じて個別に満足して頂く様努めている。 | | |

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「けーせん」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 草刈り奉仕を通し一緒に参加する事で本人の持っている力を発揮して頂き安全と確保しながら進めると共に本人の自信へ繋がり豊かな暮らしになる様支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時かかりつけ医の希望を確認している。受診や通院は本人、家族の希望に応じて対応している。 | 利用前からのかかりつけ医に通う方は3人、ホームの協力医5人、家族が遠い方2名はホームで通院介助し、他の方は家族が付き添う。家族からの提案で変化のない時は面会時に報告をしている。離れている家族から週1回葉書が届く。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 7月より週1回看護師配置、利用者情報提供をし、個々の状態把握、指示を頂いている。健康診断については施設全体にて連携を取りながら進めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関との入退院時の情報交換、また家族とも経過報告を受けたり、ホームから定期的に病院へ出向き状態確認、回復状況を把握し速やかな退院支援へと結び付けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 特養と併設であるので入所契約時に事業所で出切る範囲の説明をし、理解して頂き入所後状態によって家族との話し合いにて特養入所申し込みして頂いたりしながら進めている。すぐに入所出来ないで病院での入院等が必要で無ければホームで車椅子重度になっても出来る限りの対応をする様にしている。 | 環境面からホームでのターミナルは難しい。通院の必要が無く寝たきりであればホームでお世話をしたいと、職員は思っている。法人の特養とも連携をして本人の気持ちと家族の思いに添える支援に向けて取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急救命の講習を受けたり、緊急時対応についてマニュアルを整備し周知徹底を図っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | マニュアル作成、スプリンクラー、火災通報装置設置、併設施設で消防署立会いホーム全体での訓練実施し地域の方の協力を得て訓練行なっている。 | 法人全体で年1回消防の指導で火災避難訓練、消火訓練をしている。ホーム単独でも夜間を想定して、月1回避難訓練をしている。地域の方7人の協力もいただいている。備蓄も用意してある。通報装置の使い方も熟知されてきている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に職員の意識向上を図ると共に日常の中で職員同士指摘し合ったり上位者より指導を行なって頂きプライバシーを損ねない様対応を徹底している。 | H20年は接遇(言葉使いについて・利用者・職員)について勉強会をした。気が付いた時はお互いに注意をし合っている。 | 個々人の尊重とプライバシー確保をなお推進するために、それぞれの場面を想定したマニュアルを作成して、学習会の教材として利用も可能と考える。職員の意識向上を図る上からもマニュアルの整備を検討してほしい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者個々に合わせた声掛けをしゆっくり時間をかけ本人の意思、想いの聞き取りをしている。また個人に合わせた説明をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 買い物、散歩、ドライブ、台所の手伝い、掃除等一人ひとりその時の状態や想い、体調に配慮しながら支援出来る様に努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 個々の生活習慣に合わせて支援し日頃からおしゃれを楽しんでもらえる様に取り組んでいる。美容院へ出向き希望に合ったカットをして貰っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理の準備、盛り付け、後片付け等利用者と一緒にいき、調理方法のアドバイスを受けながら日々行っている。 | 畑で野菜を作り、収穫を楽しみ、分担して調理、配膳、盛り付け、後片付けと職員と共にしている。会話を楽しみながら、和やかにいただき、茶碗、おわん、湯のみ、箸は、個々の物を使用している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事、水分の摂取状況を把握し確実に摂って頂く為に、とろみ、ゼリー、キザミ食の必要な方等状態に合わせた食事提供をしている。栄養士さんに定期的に食事メニューの確認、アドバイスを頂いている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、歯磨き、うがい等を行なっている。必要に応じて介助し口腔ケアに努めている。 | | |

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「けーせん」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握しながらといれでの排泄を促している。その事によりオムツ外し改善に役立っている。パット等についてその人の状態に合った物を使用している。 | 「出来るだけトイレで」を心がけ、職員のサポートでリハパンをはずした利用者もいる。パットに布パンツを定着させてきている。職員の細やかな気配りが感じられた。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事、おやつ、水分等自然排便を促す様に食材提供をしている。また利用者の状態に合わせ水分とゼリーにして提供したり健康食品を摂取して頂き排便を促している。日常生活の中での散歩、家事、活動等で身体を動かす機会を設けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 仲の良い利用者同士自由に入浴して頂く等楽しい入浴時間の提供をしている。また本人の希望、身体状況に合わせた入浴時間の提供実施。車椅子利用者の方の入浴対応についても安全確保と時間を設け対応している。 | ホームの基本は週3回を目安にしているが、希望があればいつでも可能にしている。入浴時間は14:30～16:30で、基本的に遅番が対応する。介護度が高い方のときは4人を対象にして、寒い時期には近所の方と岩盤浴を楽しみ交流をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は活動、仕事、手伝い等促し生活リズムが整う様に努め、体調、希望を考慮して個々に合った休息が出来る様支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋を個人ケース整理し職員が把握出来る様にしている。また服薬確認も行い確実な服薬を行っている。本人の状態変化が見られた場合は記録を取り医療機関との連携を図れる様にしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常生活の中で個々の得意な事が(畑仕事、料理、掃除)出来る事をお願いし利用者の経験や知恵が発揮する場面を作っている。また感謝の言葉も忘れずコミュニケーションを取りながら進めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日常的に散歩、ドライブ、買い物へ出掛けている。本人の希望と家族の協力により家族との外出、外泊が自由に出来ている。 | 天気がよければ毎日のように4～5人は散歩をしている。歩くのが困難な方はドライブで対応している。2人の方は毎日職員と、法人のゴミステーションまでゴミだしをしている。散歩の帰りに畑の草取りや、虫取りをする方もある。 | |

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「けーせん」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族よりお金を預かり管理している。外出、買い物時は個々にお小遣いを特に自由に必要な物を買う様に支援している。出来る人は自己管理している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の要望に応じていつでも電話使用出来る様環境を整えている。また、家族、友人からの手紙等も届いたりそれぞれ対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関、ホールに季節の花を生けたり、共同作品での季節感を味わう事が出来る様な物を飾ったり工夫している。また居室窓からは周辺が田んぼ、山などの風景がみる事が出来季節感を味わえる。 | 季節の花(コスモス・りんどう・ゆり)がホールや居室に飾られている。お茶、コーヒーは自由に飲める状態で、お昼寝後本を読みながらくつろいだり、ゆったりとしたソファで横になっている方もいる。リモコン操作でテレビも自由に見ることが出来る。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホール内にはテーブル席、ソファ、和室とあり、それぞれが過ごしたい場所にて自由に過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 畳み部屋とフローリングの部屋がある。居室には家族が持ってきた鉢植え、写真を飾ったり本人が今まで使ってきた物や馴染みの物を持って来てもらい今までの生活を同じ様に過ごせる様にしている。 | どの居室にも花が飾ってある。入居者の希望で、山菜の名前(わらび・しどけ)をつけてある。7室はフローリングでベット利用、2室は畳部屋である。位牌の持込1名、写真、色紙、ぬいぐるみが飾られてある。掃除が行き届いて清潔で過ごしやすい。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の状態に合わせて手すりの設置やベット配置をし安全確保と自立の配慮をしている。 | | |